富所潤の

FISHIN'GRAPH

フィッシングラフ〜見て感じて楽しむ沖釣りライフ

⑬ 能登のティップエギング

◎各号連載
毎月15日発売号掲載

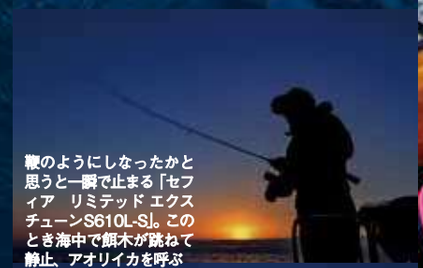
ティップエギングを初めて体験すると、竿先にアタリが出ることに驚く。それは「見えなかったものが見えた」驚き。それは今なお、進化し続けている。

日が上ってもアオリイカからのシグナルは途切れない。ガッチリとした肉感の500グラムほどのオス

触腕掛かりしても「シロアオリは切れにくい」のが富所さんの持論

好ポイントに入ると次つぎとヒット、同船者を見つつ、自分の竿先から目が離せない

ラインが止まった瞬間を見逃さず糸フケを取ってシャクリに移る



鞭のようにしなったかと思うと一瞬で止まる「セフィア　リミテッド エクスチューンS610L-Sl。このとき海中で餌木が跳ねて静止、アオリイカを呼ぶ

乗船者全員ヒットの図。これでもやや渋い一日だったとか

◀なだらかな低い山並みから続く穏やかな浅海。能登半島の東岸でティップエギングは育まれた

快晴、しかも潮が澄んでいる日は夜明け直後がチャンス。テンポよくアオリイカを掛けていく富所さん

◎とみどころ じゅん　シマノインストラクター。ティップエギング、メタルスッテゲーム、ライトヤリイカのほかタチウオなど、船のライトゲーム、「楽しむ釣り」の最先端を行く。

ティップエギングロッドには軽さ、シャープさ、パワー、粘り、そして感度と、様ざまな要素が求められる。すべてを高次元にまとめ上げた最高レベルの専用ロッドが「セフィア　リミテッド エクスチューン」。水深20〜30メートルを狙ったこの日、富所さんはS610L-S を使用

◀富所さんとともにティップエギングを築き上げてきたN-styleの松榮克典船長。アオリシーズンの予約がすぐに埋まってしまうカリスマ船長だ

取材日はイカ先生・富所潤さんをはじめ4人の釣り人が穴水港のN-styleにてティップエギングを楽しんだのだが、シグナルが非常に多く、釣れない人が自分の「何か」を改善すると、すぐに答えが帰ってきた。

ティップエギングは上達がよく分かるスポーツだ

たとえるならゴルフのスイングのように、ティップエギングはひとつ改善すると伸び、ひとつミスをすると戻る。まさにスポーツ。それが、能登の素晴らしい景色の中、アオリイカの反応によって実感できる。

道具を使うスポーツは、上達とともに理想の道具を追求する楽しみが増えていく。ティップエギングはシンプルな釣りだが、技術やタックルの差が出る釣りでもある。

餌木は素早く沈み、引き抵抗が少なく直進安定性に優れ、シャクリに対し

遡れば、それまで船のアオリイカ釣りは中オモリを介して餌木をシャクり、突然、乗りの衝撃が伝わるものだった。陸からのエギングも、アタリを取るのはマニアックなテクニックだった。

そのアタリが、だれでも分かる。ティップエギングは、船のアオリイカ釣りに革命をもたらした。

静止させたティップ＝竿先が震えたり、戻ったりすると、思わず声が出る。その視覚的な刺激は、合わせた瞬間に体感へ変わる。反射的にロッドを跳ね上げると、ズン、と軟体動物独特の重みが手から腕へ伝わり、引きが増幅しながら背中へと響いてくる。何回経験しても、この瞬間は楽しい。

釣り方はシンプルだ。

①餌木で底ダチを取る
②しっかりシャクってアピール
③ピタリと止めて乗りを待つ
④アタリに即、合わせる

動作を見れば、ほとんどの釣り人は一度で理解できる。

今年の関東地方はアオリイカが好調、始めるのに最高の年だ。同じくティップエギングの聖地・石川県能登の海も模様がよく、別格といえる釣れ具合を見せている。

能登のティップエギングの魅力は数だけでなく、釣れない理由は常に自分にあると信じられるほど、アオリイカがよく反応してくれること。

【取材協力】石川県能登穴水港／ N-style

ては機敏に動かなくてはならないし、ラインは細く強く潮馴染みのよいものが大前提。そして巻きが滑らかでライントラブルを軽減するスピニングリールが必要とされ、ロッドはティップの感度とパワーを両立させた専用モデルが欠かせない。

能登の海を出発点に、これらひとつひとつを考案し、試し、磨き続けてきた富所潤さんが使うタックルは、すべてにそのノウハウが反映されている。

実は、富所さんのティップエギングで最近変わってきたことがある。それは一連の動作で、風切り音が小さくなっていることだ。

これはニューロッド、セフィア リミテッド ティップエギング（当日はS610L-Sを使用）のブランクス、各パーツの空気抵抗が少なく、動きの精度が高く、以前より小さな入力で餌木を十分に動かせているためだろう。

そして富所さんは、その軽さとバランスとともに、感度に驚いている。「これまで見えなかったアタリが見えたのがセフィア エクスチューン ティップエギングでした。その先はないのでは？ と思っていたのですが、セフィア リミテッド ティップエギングがその先の世界を見せてくれました」

それは視覚とともに、手にも様ざまなシグナルが伝わってくる感度だと言う。

水中はどこまで感じられるようになるのか。ティップエギングの楽しみ、それはやはり、あらゆる意味で「新たなものが見えること」にある。

【セフィアアントラージュ】各サイズオリジナル設計。サイズは3.5号、S0(25g)、S1(28g)、S2(35g)、S3(43g)、S4(55g)で全4色。

◀富所さんはティップエギングでは道糸に「セフィア8+」0.4号、リーダーに「セフィア マスターフロロリーダー」1.75号を使用

【ヴァンキッシュ3000SDH】リールは1回り小さなモデルと同等の軽さを誇るヴァンキッシュ。写真の3000SDHで175グラム。価格は5万9000円

ブランクスを始め細部に渡るテクノロジーの積み重ねにより感度が向上。「まるで道糸がナイロンからPEに変わったときのような衝撃」と富所さん

【セフィア リミテッド ティップエギング】シリーズ最高レベルまで高弾性化を図ったブランクス素材を徹底的に軽く、細く、シャープに仕上げ、バランスを追求することで持ち軽さ、振り軽さを実現。富所さんをして「よい意味で違和感を感じた」ほどの軽さで「一つ先の世界へと進んだ感度」と言う。また驚くべきは細く、軽く、シャープでありながら「しなやかに曲がり込む」こと。真の軽さを実現している。
・S610L-S、S610ML-S、S68M-Sの3タイプ・全長2.08m・自重87～90g・MAXエギウエイト40～80g・価格は7万9000～7万9500円

◀カーボンモノコックグリップは中空構造がもたらす軽さと高感度が特長

◀中空・軽量・硬質で伝達性に優れるカーボンシェルグリップ。自然に手になじみ、滑らず、疲れず、高感度

Xガイド3Dチタントップは軽く、小さく、強度に優れ、糸絡みを抑え、糸抜けもよい

◀握りやすい形状を追求したパーフェクションシートCI++とカーボンシェルグリップの組み合わせ

◎ Presented by SHIMANO